

ワケ カタチには理由がある(G)

Shape follows Function & Taste

～カナディア・セイバー (Canadair Sabre) F.6



(↓ハルトマンの乗機 Bf-109G とともに)



本機は、カナダのカナディア社でノースアメリカン F-86F をライセンス生産した機体です。本家は 1950 年から始まった朝鮮戦争で活躍しますが、戦後誕生した西ドイツ空軍には英国空軍を介して納品されています。米国としては東ドイツや東欧諸国と対峙していた西ドイツに、それなりの最先端戦闘機を装備してもらう必要があったのでしょうか。大

戦中のエースのアーリッヒ・ハルトマンがソ連の抑留から戻り西ドイツ空軍に復帰して第 71 戦闘航空団「リヒトフォーヘン」の司令官の任に着いた際に、同部隊は、ハルトマン乗機のトレードマーク、「ブラックチェーリップ」を機首に塗装しました。また、両機とも、主翼前縁に「ネズ爺&ハテニヤンの特許探偵団 vol.38」で取り上げた英国ハンドレページ社の自動スラットを装備しており、この点でも共通点がありました。

(印象的だったエレールの黒箱→)

【模型について】

韓国のアカデミー(Academy)製 1/72 の F-86F のインジェクションキットです。同キットはスラットを別パーツとしているため、本機を製作するには好適です。とにかく、エレールの箱絵に描かれた塗装を表現したくて作ったものです。デカルはホビーボスのキットから流用したため、機番は架空のものとなっています。 (中川裕幸 2021 年 3 月, 改定 2025 年 8 月)

